

広 報

昭和 4 9 年

毎月 1 日

発 行

NO. 179

# とうえい



銘茶「奥三河」の  
味をどうぞ!!

(県茶品評会に協賛した  
銘茶サービスから)

## 12月号

### 人口と世帯

11月1日現在

( )内は前年比

人 口 7,126人(-162)

男 3,378人(-81)

女 3,748人(-81)

世帯数 1,860戸(+4)

### ふるさと歌壇

宮下 茂選

十一月詠草歌 第一五二回

ガラス戸にあたりて落ちし鳥の子は

小さくふるえぬ吾が手の中に

大野 むつみ

いつの間に咲き初めつらむ金木犀

あまくやさしく匂いくる道

原田 れい

嬉しさの胸にあふるるひと日にて

木犀の匂ひ心に泌みる

石原 咲子

稲架の影くろくうつつして昇る月

雲なき空に星はきらめく

岩倉 源三郎

吾亦紅つぶらに紅き花もちて

手折れば茎のか細く白し

梅田 トシ

わびしさをまぎらす庭のこすもすに

今朝は小雨の露玉光る

鈴川 三重

やりばなき心の痛手忘れんと

稲刈る鎌に力を込むる

村松 治代

消えぬ過去と知りつつ悔をくりかえす

真白き蕎麦の花つづく道

内藤 すへ



# 当町出品茶上位を独占

## 第十二回県茶品評会

### 七百余名を集め産業会館で

第十二回愛知県茶品評会が、十月三十一日、町産業会館を会場として開催されました。この品評会は、愛知県、愛知県茶業連合会ならびに東栄町が共催し、県内で生産される茶の特質を明らかにし、生産技術の向上と品質改善を図り本県茶業伸展に寄与することを目的としたものです。

出品茶の展示、褒賞授与式、入札販売会など多くの行事が盛られ県副知事、東海農政局長をはじめ県下各域からの生産者七百余名の参加を得て盛会のうちに終了しました。

出品数はせん茶百六十八点、玉露十点、てん茶五十七点、手もみ茶五十二点あわせて二百八十七点と昨年を大きく上まりました。品質的にも優秀なものが多く優良

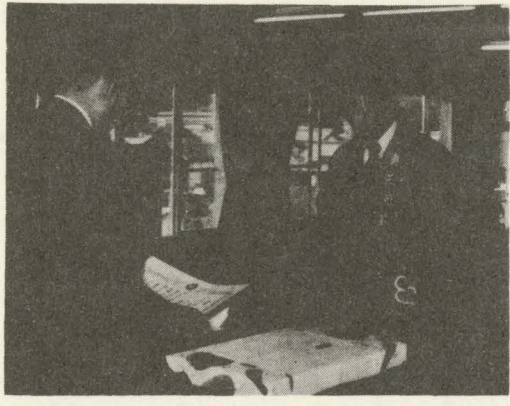


生産者の注目を集めた優良茶の展示会

審査されたものですが特筆されることは、当町出品茶が上位を独占したことです。

茶業は昭和三十九年頃から、東栄町・設楽町を中心に産地化が進められ、面積も九十四(当町四十四ha)と増加し、生葉量で二百六十四トが生産され優良茶の産地として注目をあびているところですが、本年の成果を次の飛躍への貴重な足がかりにして、次期会場(吉良町)でも優秀な成果をおさめ、共通の願い銘茶「奥三河」のブランド確立を期したいと思います。また、品評会に協賛して開催された郷土の特産と茶業展は青年の

(県知事賞)、三位鈴木幸雄氏百九十七点(県知事賞)、四位森下保夫氏百九十七点(東栄町長賞)、手もみ茶部門二位松下清七氏百九十九点(県茶連会長賞)と輝かしい成果を上げたのです。



みごと農林大臣賞(第1位)を受けた尾林克時さん

家を会場に、写真展、特産と茶業資材展、特産物試食会のほか、郷土芸能(花まつり、さんさ)の演示、茶業婦人部有志による銘茶サービスも行なわれ、好評のうちに全行事を終えました。

なお、当町出品者で入賞されたかたの名前と順位を列記しますと、

◎せん茶の部 (敬称略)

一位 尾林 克時(農林大臣賞)

二位 森下 義治(県知事賞)

三位 鈴木 幸雄( )

四位 森下 保夫(東栄町長賞)

森下幸子(六位) 松下庄次郎(十七位) 内藤武市(十七位) 原田幸男(二十七位) 森下幸夫(三十五位) 浅岡富美男(三十六位)

◎手もみ茶の部 (敬称略)

二位 松下 清七 (県茶連会長賞)

### お知らせ

#### 妊婦検診および母親教室開催

今回の母親教室は「赤ちゃんの保育」についての講義です。

#### ◎日時

十二月二十五日

午後一時～二時 母親教室  
午後二時～四時 妊婦検診

#### ◎場所

産業会館保健室(二階)

#### ◎担当

東栄病院産婦人科瀬口医師、助産婦、保健婦

#### 「くらしと税金」

#### 十二月放送予定

#### ◎放送日とテーマ

七日マイホーム作りの貯蓄

十四日一年のしめくくり

二十一日得にならない脱税

二十八日身近かな税金の話

#### ◎放送時間

東海テレビ 七時三十分～七時四十五分

#### 訂正

#### ◎花祭り日程

小林

(誤) 一月三日～四日

(正) 一月二日～三日



東栄町が四年目ごとに実施している合同慰霊祭が今回より戦没者追悼式として、十一月九日の午前十時から青年の家講堂において、諸英霊四百七十七柱を招いてしめやかに執り行なわれました。

## しめやかに戦没者追悼式

青年の家講堂を祭場に

### — 417柱を偲ぶ —



追悼碑の前に花を捧げる遺族たち

第五回目を迎えた戦没者追悼式は、青年の家講堂を祭場として行なわれ、やや肌寒さが感じられたこの日、祭場前に準備されたテン

ト張りの受け付けは、町内各域から参列した遺族のかたたちで開式間々までにごわいました。

祭場は遺族三百四十七名の大部分が参列して空席はほとんど見当らないほどの満員。戦死病没者の諸英霊四百七十七柱をまつる祭壇には、いまが盛りの菊の大輪をはじめとする生花がみごとに配列され胸にせまるおごそかなふんい気が

## 佐々木氏みごと 預選に輝く

(詠進歌) 献詠祭で表彰を受ける

このほど昭和四十九年度詠進歌詠進歌において一般の部に出品した佐々木憲氏(下田)の詠進歌がみごと預選に輝き、十一月三日、熱田神宮の神楽殿において晴れの表彰を受けました。

この詠進歌は、小中の部、一般の部と幅広い範囲で行なわれるものですが、年々応募作品点数が増加し、今回はその多くの中から十歌が預選となったのです。

おじいちゃんから聞いた話だが明治の終わりの市場は、お宮周辺は森で家も少なくさみしい村だったと言うことだ。

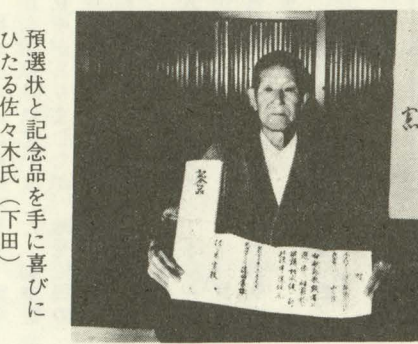
## ぼくの町

下川小 六年  
藤原 正邦

# 学童作品

村と民家の間をぬって三つぐらのせまい道には日に十五台ぐらい荷をつけた馬や馬車、大八車がガラガラとのんびり通っていた。夏にはたくさんのはたるが飛びかい、それはそれはきれいだっただうだ。

昭和の初め、道はじやり道になつたとき自動車は砂けむりを上げていた。それも日に五、六台だと言う。公民館もきれいに修ぜんされ、家並もにぎわってきた。そして昭和五十年代に入ろうとする今、舗装された道路には大型小型の自動車が休むことなく走る。ぼくの家のまわりもびっしり家たちこんでにぎやかだ。朝夕は工場に通う人、学校に通う学生でにぎわう。



預選状と記念品を手に喜びにひたる佐々木氏(下田)

場内いっぱいにあふれていました。来賓には、愛知県知事代理、参議院議員八木一郎氏、衆議院議員岡田哲二氏、同上村千一郎氏代理同村田敬次郎氏代理をはじめ町内外から多数の臨席を得、午前十時ちやうど式典の幕があげられました。

祭主(原田町長)の祭詞、それに国会議員を代表して八木一郎氏、竹下県会議員、片桐町議会議長の追悼の辞が順次行なわれ、次に遺族一人ひとり追悼碑の前に生花を供える「献花」がつづき、最後に遺族会長(佐々木武夫氏)の謝辞があり、午前十一時すぎ滞りなく戦没者追悼式を閉じました。

佐々木氏は、町にあつては「ふの部と幅広い範囲で行なわれるものですが、年々応募作品点数が増加し、今回はその多くの中から十歌が預選となったのです。」

これからもすばらしいわが町の姿を歌い込んだ作品を数多く残してほしいものです。

なお、預選に輝いた佐々木氏の詠進歌は次のとおりです。

「手灯とりて渡る板橋かつゆれて  
夜霧はひろく山は覆えり」

12月4日〜10日  
「人権週間」  
— 親と子の —  
思いやりの心から



# 東栄病院 第三報

## 優れたエックス線装置整う

### 早期発見と適正な診断に

今月は整備された検査機構の内エックス線検査設備についてご紹介いたします。

エックス線検査室は、透視診断撮影室と一般撮影室、操作室、暗室に分れております。エックス線検査は主に内蔵疾患、骨疾患など外から見えない体内にある病巣の位置とか程度を透視して診断したり、エックス線写真に撮影して診断し治療方針をたてる重要な役割を担っています。

設備されている機械は東三河の大病院の設備に劣らない優秀な設備を昭和四十八年度事業で整えることができました。

次に、エックス線装置の機械をご紹介しますと、

(1)リング型エックス線テレビ装置

この装置は、内蔵疾患や骨折などの透視診断に使われます。とくに消化器系の病気の診断に威力を発揮します。テレビカメラを備えており、操作室のモニターテレビ

に写し出される影像によっていちばんだいじなところをすばやくとらえ、診断すると同時に写真にとる装置で、従来はまっ暗の中での透視することができなかったことなど患者さんを待たせる時間が必要であったのが、電灯をつけた明いところで出るので待ち時間がなく、しかも明るいので不安感をまったくあたえないのが特徴です。

(2)模型自動走行断層撮影装置

この機械は、病菌に侵されている部分を一度に三枚から五枚の写真を撮り、傷の大きさ、深さなどを診断する機械で、主に胸部疾患の診断に使われます。

(3)天井走行式エックス管支持装置

この装置は、一般のエックス線写真を撮影するのに使用します。天井走行式のため床面積を有効に使える利点があります。

その他に回診用エックス線装置携帯用エックス線装置を備えています。

このように、その目的に合った優秀な機械でそれぞれ適正な診断資料を得て病気の治療と予防に努めて、みなさんの健康を守っていただきたいと思ひます。

記章を贈りました。

◎ 伊藤政市氏

町村合併前後、議会議員、町村三役として多年にわたり地方自治の育成発展に貢献

◎ 故鈴木博氏

自治功労者を招き表彰状と功労記章を贈呈

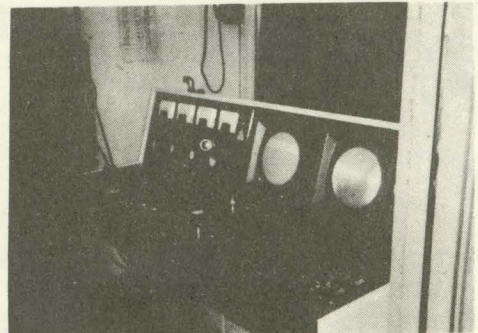


自治功労者を招き表彰状と功労記章を贈呈

## 伊藤・故鈴木両氏を表彰

### 文化の日 自治功労者に

去る十一月三日「文化の日」、東栄町産業会館において、昭和四十九年度の町内功労者表彰式が行なわれました。本年度は町の自治に活躍された伊藤政市氏、故鈴木博氏の二人が選考され、表彰状や功労



エックス線テレビ装置操作室内部

## 東栄町議会議員の佐々木進一氏死去

東栄町議会議員の佐々木進一氏(大字振草字古戸)が、去る十一月五日ご他界になりました。

佐々木氏は、昭和四十六年四月就任以来、今日まで厚生委員として福祉増進に熱意を傾け、あるときは経済建設委員、造林委員としてご尽力いただき、さらに今後いつそのご活躍を願えるものと存念じておりましたのに惜しみてあまりあるものがあります。謹んで哀悼の意を表します。

## 三高委員ら感謝状受ける 人権擁護に多大な活躍

地域住民の人権が犯されることのないように監視したり、また救済する仕事をしている人権擁護委員というのがありますが、このほど三名の委員に全国人権擁護委員連合会から感謝状が贈られました。

この三名は、三高宏氏、白川一市氏、関本英子氏で、八年以上人権擁護委員として活躍されたことなどがこのたびの榮譽につながっています。

二十三年余の議会議員生活の中で、その間議長、副議長を務めるなど、地方自治の育成発展に貢献など、今回の表彰式で、伊藤政市氏は病弱のため代理のかたに故鈴木博氏は遺族のかたにそれぞれ表彰状と功労記章を手渡ししました。

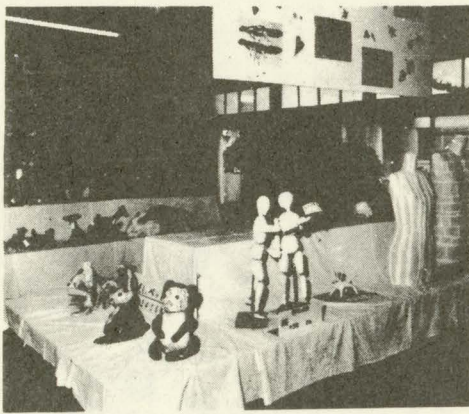
### ◎商工貯蓄共済制度発足◎

商工業を営んでいるかたに

- (特色) 貯蓄、貸付、生命保険の3つを備えている(加入対象者)
1. 商工業者、その家族および従業員
  2. 加入は満14歳7カ月のかたから満69歳6ヶ月までのかたで20口まで加入できます
- ◎年末保障制度もあります  
くわしくは商工会でおたずねください  
電話 (05367) 6-0530

たものです。今後とも身上などで困っておられるかたがたの救済などに活躍されることを願うものであります。





技術とくふうをこらした作品でいっぱい (造形展)

豊かな生活を楽しむ家庭、学校、その他の集団を育てようとするこゝろがねらいとされている菊作りは、今では一

回を重ねることにりつばな菊が多く出品される菊展は、ことしも十一月一日から七日まで開催された「文化祭」に色彩を与えまし

### 推せんに森下保夫氏ら みごとな作品でいっぱい

一般家庭にも広く普及しており、今回も多くの人がりつばな菊を出品されました。

作品はいずれも甲・乙つけがたいたりつばなもののばかりで、審査員一行も熱心に町内を巡回し慎重な審査が行なわれたのです。

本年度の入賞者は次のかたがたです。

- ☆ 推せん 森下保夫、伊藤清一
- ☆ 特選 鈴木久次、森下保夫、新谷庫一

## 東 栄 町 文 化 祭

### 八日間にわたって開催

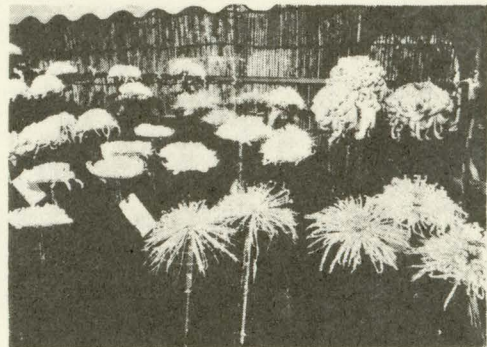
文化の日を中心とする恒例の行事として、総合文化センターが八日間にかけて開催した「文化祭」は、町民の文化に対する認識を高め、豊かな情操を培って地域文化の向上に寄与すること

を目的として行なわれ、初日の出足はまずまずのところでしたが、十一月三日の種目別町民体育大会とも重なった「文化の日」は観戦をかねた児童・生徒、一般の人たちで大にぎわい。

小中学校の造形展をはじめ十二種類の展示品が広い会場いっぱい陳列され、どの作品も内容が充実していて参観者になかなかの好評。また、この期間中のその他の行事として、お茶の会、音楽教室吟道大会も行なわれました。

## 展示品、参観者に大好評 秋を色どつた十二種類の作品

美しく咲きほこつた  
入賞菊の数々



## 菊花展

## 盛大に北設議員大会

### 設楽町総合センターで開催

### 当町から二議案を提出

十一月一日、設楽町総合センターにおいて、第十一回北設楽郡議員大会が、鈴木副知事をはじめ地元出身の国会議員、県議会議員、郡下各町村長など多数の来賓を迎えて盛大に開催されました。

大会は各町村会より提出された全議案を万場一致の賛同を得て採決することを決議しました。

「水源地域に対する助成措置について」と、「地方自治体の運営するべき医療施設に対する助成について」の二議案を提出しました。

「水源地域に対する助成措置について」は、北設楽郡は豊富な水源地域であつて、この水の恩恵を受けている大都市工業地域との所得、生活水準は年とともに格差が生じている、にもかかわらず国・県は水源かん養を果たしているわれわれ郷土にはなんらそれに対する助成ははらわれていない。

水資源確保または過疎対策上、このような社会情勢のアンバランスの解消を早急に図られるよう要

望するもので、これはひとり東栄町の問題ではないので郡の共同提案としました。

「地方自治体の運営するべき医療施設に対する助成について」は、へき地または過疎地の医療問題であつて、住民の「いのちとくらし」を守るべく医療機関の整備充実が欠くことのできないものである。幸にして当町には公立の東栄病院を設置して地域住民はもとより近隣町村の公的医療機関の基幹として微力をつくしているが、

昨今の物価の上昇、医療従事者の確保困難、人件費の高騰などによりその経営はきわめてきびしいものがある。

こうしたへき地、過疎地における公立医療機関の悩みはここの町のみならず全国的に同じ傾向にある。そこで国、県では「このような医療機関に対し特別の財政援助を講ぜられるよう要望するものである」と趣旨を述べて採択された案件は各関係機関に対して早期実現を促すことになりました。

- ☆ 準特選 静枝、清川栄造、森下保夫、原田福弥、伊藤春一郎、伊藤利之
- ☆ 入選 加藤市之助、深見静代、鳥嶋英雄、伊藤保市、深見良一、伊藤清一

小戸森立子、原田うた子、森下



